

受理年月日	令和6年6月18日	付託年月日	令和6年6月21日	所管委員会	福祉都市委員会
番号	6年請願第2号				
件名	市民会館跡地の公園整備について				
請願者	須崎公園の大木を守る会 代表世話人 [] 外 648人 (R6.6.18) - 670人 (R6.8.21)				
紹介議員	森[筆頭]、中山、倉元、堀内、綿貫				
分割付託	なし				
要旨	<p>須崎公園に市民会館の建て替え施設として福岡市拠点文化施設が整備されています。一体の整備事業として拠点文化施設完成後に市民会館は取り壊され、跡地は公園として整備されることになっています。現計画では市民会館跡地の中央部は芝生広場、周辺に高木が配置され、那珂川沿いには利便施設として公園と那珂川の両方の眺望を楽しめ、幅広い年齢層が利用できるレストランを設置する計画となっています。現計画は多くの問題があり、私たちは、より多くの市民の声を生かした緑豊かな公園にすべきと考えています。</p> <p>2009年策定の新・緑の基本計画の基本理念では「福岡が持続的に発展していくためには、福岡の持つ特性を活かしつつ、経済性、効率性優先だけではない都市づくりを進め、『都市の中に緑を創る』という発想から転換した『緑の中に都市がある』姿を目指さなければなりません」と記載されています。また、本市が取り組んでいる都心の森1万本プロジェクトの説明として「天神ビッグバンや博多コネクティッドにより、まちが大きく生まれ変わっていく中で、緑が持つ魅力により、まちに『彩り』を加え、憩いや安らぎが感じられる空間を創出するため、……緑豊かなまちづくりを推進」しますと説明され、また、ロゴの説明に多様性、ウェルビーイング環境がうたわれています。</p> <p>先日、グテーレス国連事務総長は「地球温暖化の時代は終わった。地球沸騰の時代になった」と発言しているように、気候危機は深刻な状況になっています。都市における緑地はヒートアイランド現象を軽減し、地球温暖化防止に必要です。ところが、本市の現状は、持続性がある樹木地は減少傾向にあり、また、舞鶴公園では、2022年までの5年間に大木が98本伐採されています。街路樹や須崎公園でも多くの大木が伐採されました。</p> <p>私たちは、都心部の再開発が進む中で、ますます都心部の良質な緑地の確保が必要と考えています。都心の森1万本プロジェクトが進められていますが、市民会館跡地の整備においては、多様性、ウェルビーイング環境を実現するために、緑豊かな森を再現することが必要です。そのために市民会館跡地の整備に関する市民会議を設置し、多くの市民の声を生かす必要があると考えます。また、新・緑の基本計画の目標年次である2020年は既に経過しており、早急に改定する必要があります。</p> <p>よって、以下の事項を請願します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 市民会館跡地の整備については広く市民の声が反映できるよう、市は意見交換及び意見聴取の場として札幌市の気候市民会議のような無作為抽選の市民と公募市民で構成する「市民会館跡地の整備に関する市民会議」を設置すること。 市は市民会議の意見を尊重し、市民会館跡地の整備に反映させること。 現況調査を実施し、2009年策定の新・緑の基本計画を早急に改定すること。 				
審査	令和 年 月 日	結 果	委員会 令和 年 月 日		
年月日	令和 年 月 日		本会議 令和 年 月 日		
	令和 年 月 日				

2024年6月/8日

福岡市議会議長

打越基安様

請願者

須崎公園の大木を守る会

代表世話人

外 648 人



市民会館跡地の公園整備についての請願書

請願趣旨

須崎公園に市民会館の建て替え施設として福岡市拠点文化施設が整備されています。一体の整備事業として拠点文化施設完成後に市民会館は取り壊され、跡地は公園として整備されることになっています。現計画では市民会館跡地の中央部は芝生ひろば、周辺に高木が配置され、那珂川沿いには利便施設として公園と那珂川の両方の眺望を楽しめ、幅広い年齢層が利用できるレストランを設置する計画となっています。現計画は多くの問題があり、私たちは、より多くの市民の声を生かした緑豊かな公園にすべきと考えています。

2009年策定の新・緑の基本計画の基本理念では「福岡が持続的に発展していくためには、福岡の持つ特性を活かしつつ、経済性、効率性優先だけではない都市づくりを進め、『都市の中に緑を創る』という発想から転換した『緑の中に都市がある』姿を目指さなければなりません。」と記載されています。また、福岡市が取り組んでいる「都心の森1万本プロジェクト」の説明として「天神ビッグバンや博多コネクティッドにより、まちが大きく生まれ変わっていく中で、緑が持つ魅力により、まちに「彩り」を加え、憩いや安らぎが感じられる空間を創出するため、…緑豊かなまちづくりを推進します。」と説明され、またロゴの説明に「多様性」「well-being 環境」が謳われています。

先日、グテーレス国連事務総長は「地球温暖化の時代は終わった。地球沸騰の時代になった。」と発言しているように、気候危機は深刻な状況になっています。都市における緑地はヒートアイランド現象を軽減し、地球温暖化防止に必要です。ところが、福岡市の現状は、永続性がある樹木地は減少傾向にあり、また、舞鶴公園では、2022年までの5年間に大木が98本伐採されています。街路樹や須崎公園でも多くの大木が伐採されました。

私たちは、都心部の再開発が進む中で、ますます都心部の良質な緑地の確保が必要と考えています。「都心の森1万本プロジェクト」が進められていますが、市民会館跡地の整備においては、「多様性」「well-being 環境」を実現するために、緑豊かな森を再現することが必要です。その為に「市民会館跡地の整備に関する市民会議」を設置し、多くの市民の声を生かす必要があると考えます。また、新・緑の基本計画の目標年度である2020年は既に経過しており、早急に改定する必要があります。そこで、以下請願します。

請願項目

- 1、市民会館跡地の整備については広く市民の声が反映できるよう、福岡市は意見交換及び意見徴集の場として、札幌市の「気候市民会議」のような無作為抽選の市民と公募市民で構成する「市民会館跡地の整備に関する市民会議」を設置してください。
- 2、福岡市は市民会議の意見を尊重し、市民会館跡地の整備に反映させてください。
- 3、現況調査を実施し、2009年策定の新・緑の基本計画を早急に改定してください。